

平成 21 年 6 月 11 日現在

研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：2006～2008
 課題番号：18520478
 研究課題名（和文） 古代・中世古記録書誌情報の蒐集と古記録メタデータ・データベースの構築
 研究課題名（英文） The Accumulation of Philological Information of Ancient and Medieval Diaries and the Construction of the Meta-data/Database
 研究代表者
 尾上 陽介（ONOE YOSUKE）
 東京大学・史料編纂所・准教授
 研究者番号：00242157

研究成果の概要：昭和 30 年代以来、東京大学史料編纂所古記録室が蓄積してきた古代・中世古記録史料の日付取り調書（何の記録に何年何月何日の記事が含まれているか、などを調べたもの）と、新たに調査して作成した調書について、調書の様式を均一に整えた上でデジタルデータ化を進めた。さらに、データベース公開に向けて、検索結果を一致させるために様々な表記のある史料名や記録作者名を統一するなどの調整を行ない、逐次公開できるようにした。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	1,000,000	0	1,000,000
2007年度	900,000	270,000	1,170,000
2008年度	1,300,000	390,000	1,690,000
年度			
年度			
総計	3,200,000	660,000	3,860,000

研究分野：史料学

科研費の分科・細目：史学・史学一般

キーワード：日本史、古代中世古記録、部類記、日付取り

1. 研究開始当初の背景

（1）東京大学史料編纂所古記録室（以下、古記録室とする）では、これまでに知られている限り、昭和 30 年代から特定の史料群に含まれる古記録史料について、日付取りを中心とする調査を行い、調書を蓄積してきた。具体的には、彰考館文庫（1959～62 年度調査、以下同）・大和文華館鈴鹿文庫（1968～70 年）・京都大学附属図書館（1981～85 年）・陽明文庫新写本（1987～94 年）などである。この調査は、大日本古記録を編纂するにあたり、ある記録の記事について網羅的に蒐集する

ための基礎的データを蒐集するためのものであった。

当初の調書は罫紙に各自が手書きで記入する方式であったが、そのため調書の書き方は様々で、担当者によって異なり、後になって他人が調査結果をすぐに参照することは困難であった。

（2）前に述べたような問題点を解消するため、2000～04 年度科学研究費補助金特別推進研究（COE）「前近代日本史料の構造と情報資源化の研究」（研究代表者石上英一）の資金

を得て、新たに史料の性格の相違（多くの原典から抜粋されたものか、あるいは単一の原典からなるものか、など）によって五種類の調査シートを用意し、それによる古記録日付取りデータの画一的な蒐集を開始した。調査対象となった史料群は、主として史料編纂所に所蔵される写真帳や謄写本、特殊蒐書などであった。その他、国立公文書館内閣文庫に所蔵される古記録類についても、調査を継続的に行った。

また、2004～07年度科学研究費補助金基盤研究（A）「画像史料解析による前近代日本の儀式構造の空間構成と時間的遷移に関する研究」（研究代表者加藤友康）により、蒐集した調書シートの一部のデジタル化を進めてきた。そして、史料編纂所内のイントラネット上でデータベース公開について実験を行った。

2. 研究の目的

本研究は、日本古代・中世に作成された古記録史料（個人の日記もしくは日記を典拠とする諸記録類）について、すでに蓄積しつつある日付取りなどのデータをもとに、ある古記録に誰の何年何月何日条の記事が含まれ、同時にそれがどのような形で成立したものであるのか、という情報の網羅的なデータベースを構築することで、古記録史料を個々の研究者が等しく利用できるような環境の実現を目指すものである。

そのため本研究は、新たな調査によってさらに調書シートの蓄積に努めるとともに、前に述べたようにこれまでデジタル化を進めてきた調書シートデータについて、書名・人名などについてシソーラスを構築するなど、データベース公開に向けての調整をデジタルデータに加えることを目的とした。

3. 研究の方法

古代・中世の古記録史料を多く所蔵する機関を集中的に調査して調書を作成し、新たなデータの蒐集に努めるとともに、各所蔵機関における請求番号や記主（筆者）名、収載日条データ（日付取りデータ）、特記事項（奥書や蔵書印など）等、多岐にわたるメタデータのデジタル化を進める。

さらに、データベースの公開・検索が可能となるよう、データ内容の項目・様式の整備に努め、史料編纂所が構築する編年史料カードデータベースを介して、逐次、公開を進められるようにする。

4. 研究成果

（1）2006年度には、まず古記録室が従来蓄積してきた古記録収載日条データについて、データベース化を前提としたデータ様式・項目の調整を進め、フォーマットの異なるメモ

形式のデータについては形式を整理した。

その際、データの検索結果を一義なものとするため、記録間のシソーラスの構築を進めた。例えば、同じ古記録の記事であっても、それが引用された部類記・抜書などにおいては記録名の表記が異なることが多い。このような場合でも、それぞれの記事が同じ人物の記録であると認識されるように調整した。

また、古代・中世の古記録史料を多く所蔵する機関に出張して調査し、各所蔵機関における請求番号および記録名、収載日条、書誌情報、特記事項などの新たなデータの蒐集に努めた。2006年度の調査先（調査時期）は以下の通りである。

神宮文庫（9月・11月）

陽明文庫（11月）

国立歴史民俗博物館（12月）

京都大学附属図書館（2月）

京都府立総合資料館（3月）

上記各機関において調書を作成する際、たとえば原史料に「不知記」などとあるのみで記録名が明記されていない記事や、年次や月日が明記されていない記事についても、その内容から記録名や年月日を調査することに努めた。

以上の作業から、2006年度には、これまでに蓄積してきたデータ約12万件の内の6割分について整理を終了し、従来から蓄積してきたデータを整理してフォーマットを統一したものと、新たに調査して作成した分を合わせて、計500枚余りのデータシート（個別記事存在データ換算では1万件を超える）を作成した。

（2）2007年度には、2006年度に引き続き古記録室が蓄積してきた古記録収載日条データと、本研究により新たに作成したデータについて、データベース化を前提としたデータ修正を行った。

また、前年度に引き続き古代・中世の古記録史料を多く所蔵する機関に出張して調査に努めた。2006年度の調査先（調査時期）は以下の通りである。

西尾市立岩瀬文庫（2月）

大阪府立中之島図書館（2月・3月）

京都大学附属図書館（3月）

京都府立総合資料館（3月）

上記各機関における調査の方法は前年度と同様である。

以上の作業から、2007年度には、蓄積データ約12万件の内、残りの4割分について整理を終了し、従来から蓄積してきたデータを整理してフォーマットを統一したものと、新たに調査して作成した分を合わせて、計700枚余りのデータシート（個別記事存在データ換算では4万件を超える）を作成し、デジタルデータ化した。

(3) 2008年度には、2007年度に引き続き本研究により新たに作成したデータについて、データベース化を前提とした作業を進めた。

また、引き続き古代・中世の古記録史料を多く所蔵する機関に出張して調査を実施した。2008年度の調査先(調査時期)は以下の通りである。

西尾市立岩瀬文庫(9月)

京都大学附属図書館(9月)

京都府立総合資料館(10月)

上記各機関における調査の方法はこれまでと同様である。

このほかに、史料編纂所所蔵レクテグラフや国立歴史民俗博物館所蔵高松宮家本についても、部類記などの古記録類を調査し、データを蒐集した。

以上の作業から、2008年度には、新たに約250枚のデータシートと入力データ2400件(個別記事存在データ換算では計5000件を超える)を作成し、デジタルデータ化した。

(4) 本研究により、これまで蓄積してきた調書データをデジタル化した主要な史料群は以下の通りである。

(史料編纂所所蔵写真帳)

東山御文庫本写真帳

勸修寺家旧蔵記録写真帳

広橋家記録写真帳

柳原家旧蔵史料写真帳

下郷共済会所蔵文書写真帳

田中穰氏旧蔵典籍古文書写真帳

(史料編纂所所蔵謄写本)

伏見宮御記録謄写本

柳原家記録謄写本

進献記録抄纂謄写本

諸記纂抄謄写本

(その他)

史料編纂所所蔵徳大寺家本

史料編纂所所蔵レクテグラフ

国立公文書館所蔵内閣文庫本

国立歴史民俗博物館所蔵高松宮家伝来禁裏本

刊本歴代残闕日記

刊本図書寮叢刊(砂巖・仙洞御移徙部類記・御産部類記)

これらの本研究によって整備したデータについては、史料編纂所が構築している編年史料カードデータベースを介して、逐次、公開に努めている(現在までに、所内公開を開始した)。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計9件)

尾上陽介、「『明月記』原本及び原本断簡一覽」、『明月記研究提要』(明月記研究会編、八木書店) 1~31、2006、査読無

本郷恵子、「中世における政務運営と諸官司の空間」、『院政期の内裏・大内裏と院御所』(高橋昌明編、文理閣) 115~129、2006、査読無

村井祐樹、「松永弾正再考」、『遙かなる中世』 21、103~115、2006、査読無

尾上陽介、「記録語「二音」」、『日本歴史』 704、56~57、2007、査読無

臼井佐知子・高松洋一・新江利彦・井上聡・相原佳之、「デジタル化資料はオリジナル資料をこえられるか」、『史資料ハブ』 9、53~79、2007、査読無

本郷恵子、「『古今著聞集』の『聖母と軽業師』」、『千葉史学』 50、80~119、2007、査読無

尾上陽介、「東京理科大学近代科学資料館所蔵『具註曆 仮名曆』について」、『東京大学史料編纂所研究紀要』 18、106~118、2008、査読無

村井祐樹、「東京大学史料編纂所所蔵影写本「兼右卿記」(上)」、『東京大学史料編纂所研究紀要』 18、119~154、2008、査読無

尾上陽介・遠藤珠紀・宮崎肇、「修明門院熊野御幸記・後鳥羽院修明門院熊野御幸記・頼資卿熊野詣記」、『国宝熊野御幸記』(三井記念美術館・明月記研究会共編、八木書店) 87~114、2009、査読無

6. 研究組織

(1) 研究代表者

尾上 陽介 (ONOE YOSUKE)

東京大学・史料編纂所・准教授

研究者番号：00242157

(2) 研究分担者

井上 聡 (INOUE SATOSHI)

東京大学・史料編纂所・助教

研究者番号：20302656

(3) 連携研究者

本郷 恵子 (HONGO KEIKO)

東京大学・史料編纂所・准教授

研究者番号：00195637

末柄 豊 (SUEGARA YUTAKA)

東京大学・史料編纂所・准教授

研究者番号：70251478

高橋 一樹 (TAKAHASHI KAZUKI)

国立歴史民俗博物館・准教授

研究者番号：80300680

藤原 重雄 (FUJIWARA SHIGEO)

東京大学・史料編纂所・助教

研究者番号：40313192

村井 祐樹 (MURAI YUKI)
東京大学・史料編纂所・助教
研究者番号：20323660
(以上、2006・2007年度は分担研究者)